





# 同窓会 この一年

## 令和四年度はDVDで！ 甲女から二高、そして西高へ ～つなぐ！繋ぐ！届けブルーのyell！！～

### 二部形式渾身の作

高27回 長倉 美穂



企画 梅本民子様(甲女 四十一回生)、古沢喜喜様(甲女四十二回生)の三名による座談会形式で、コロナ禍の少し落ち着いた時期に、感染対策をした上で、無事収録を終えました。また第二部として、同窓会事業で、これまで企画部が扱ってきました旅行や講演会の記録も取めることにしました。

女四十一回生、若尾多香様の講話を予定して居りましたが、コロナ禍の為、延期中止となりました。しかしながら、総会幹事学年が二高卒業生から、西高卒業生へと変わる節目の年を迎えるにあたり、お元気の甲女の皆様の思い出話を切り替え、記念のDVDを作成することにしました。若尾多香様(甲女四十一回生)が立ち加わると、早く百人から卒業したのはい集まれる会にしたいね、と意気高く目標設定、立派な看板も出来ました。十一月の定例会では三二二ヶ月が経ちました。

コロナ禍により、講演会が残念な事に延期、中止となりましたが、甲女の方々の思い出や企画部主催の研修旅行や講演会の過去の記録をDVDにしました。

### 東京支部

#### 世代を越えて 新しい交流を!!

東京支部 副支部長 高30回 西原 妙子

共学一学期生が卒業したのは四十五年前。同窓会がある事も知らず、長い年月が経ちました。二〇一四年、首都圏の同窓生で集まろうかと十名程の手作りの世話話人が立ち上がり、銀座で第一回首都圏甲府西高会を発足。少しづつ仲間にお世話になった坂本先生に

春にはお花見B&Qと親交を深めてきました。甲府から同期の齊木校長、三期の手島校長に来賓として来てもらい、倫理社会の授業でお世話になった坂本先生に



平成十六年五月二日の第百回定期総会に誘われたのが縁で、同窓会総務部に加入して頂きました。この翌年百一回総会の当番幹事となり、卒業以来の懐かしい仲間との再会と、十才上の高四回生や甲女の方々の、それに若い後輩達との出会いに心ときめかせ、力を合わせて総会を成功させた思い出が、今も宝物のように蘇ってきます。



DVD作成を志してからは、ほぼ一ヶ月、IT工房にいく庵、様の協力の下、編集作業を重ね、企画部手作りの作品が令和三年一月に完成致しました。長引くコロナ禍でなかなか上映の機会を得られませんが、貸し出しをしております。第一部は甲府高女の頃の学生生活や社会との関わり



加者も増え、早く百人から集まれる会にしたいね、と意気高く目標設定、立派な看板も出来ました。十一月の定例会では三二二ヶ月が経ちました。二〇一四年、首都圏の同窓生で集まろうかと十名程の手作りの世話話人が立ち上がり、銀座で第一回首都圏甲府西高会を発足。少しづつ仲間にお世話になった坂本先生に

### 磨かざれば光あらじな

高14回 松本さか江

その若き思いで常任理事として十八年間総務部を担当させて頂きました。同窓会は会則十二条にあり、伝統の重みを改めて感じました。甲府西高の睦を図り、母校の発展のために寄与することです。同窓会活動が円滑に運営出来るように、学校や各部の連絡調整、常任理事会、理事会などの開催通知の印刷発送が主な仕事です。磨かざれば光あらじな。同窓会活動が円滑に運営出来るように、学校や各部の連絡調整、常任理事会、理事会などの開催通知の印刷発送が主な仕事です。

### まちなかの文化美術イベントを担当して

高26回 奥山眞佐子



甲府市教育委員会主催の朗読ワークショップは六年、朗読を学ぶ中、心の音読と、読み聞かせを中心とした、二クラス構成で開催され、気分がすっきりした「孫への読み聞かせ」の勉強になった。このご感想が数多く寄せられました。次回が重ねられました。新型コロナウイルス出現後も、市民憲章の「常に心がけて知性を磨き、品性を高め情懷を豊かに」を実行すべく、市の職員の方々と一緒に、マスコ着用で間隔をとった軽い運動と、郷土ゆかりの樋口一葉を聞く会となりました。時代背景や聞き慣れない言葉の説明を加え、朗読は、「知っていたつもりで知らなかったこと」を

### 同級生ごんには

高21回 仲澤マチ子

今年七十二才。もう大勢の同級生が旅立ちました。謹んで哀悼の意を表します。私達もそんな年になりました。十年前、高二十一回生二十八人が同窓会実行委員をする事になりました。大半の人は話がした事もなかったのですが、家に帰り、卒業アルバムを開いて「ああ、あの人があー」と。二回目からは以前から仲間だったかの様に気楽に頼み事も出来る様になりました。「同級生」とは、何と不思議な人間関係でしょう。今は、月一回食事をするようになりました。懇親を聞いてもらったり励ましてもらったり。



私の大切な宝物です。この素晴らしい出会いに感謝!

### 事務局

### 会計部

学校及び正副会長、庶務・企画・会計各部の連絡調整や各種記録の保存管理、本会の業務全般の連絡調整、送等の業務を行っております。構成人員は局長、次長、局長、局長四名の計六人で、同窓会活動が発展する様努力をしております。

会計部の役割は西高同窓会の大切な財産を有効活用し、各部の活動が滞りなく行われる様、その収支を管理執行して行くことです。コロナ禍で活動に制限があり大変な時ですが、同窓会の活動が安定して速やかに進める様、会計として誤りが無い様に部員全員で気を配って責任を果たします。

### 企画部

### 庶務部

三年越しで企画してきましたDVDも昨年度完成し、今年度は上映の機会をと考えて参りましたが、続くコロナ禍でもそれならず、貸し出しをする事になりました。第一部は甲女の皆様の思い出話、第二部は講演会とレクの記録が収録されています。大勢の方々にご覧頂ければ幸いです。

庶務部の主な仕事は会議録作成と会報発行です。会議録は正確・簡潔を心がけて作成しています。会報では同窓生の様子、在校生の活躍等幅広い記事を中心に、見て楽しめる会報を目指しています。この会報が、皆様の心の絆と成りましたら幸いです。

## 各部の活動



# 会 員 は 現 在

## 人生百年時代を生きる

高3回 小林美佐代



「人生百年時代」という言葉を度々耳にするうちに私も百歳まで生きようという気がしてきました。然しコロナ禍三年間の自粛生活は高齢者の身体・認知機能に大きく影響したと思います。私も八年前は熊野大社の石段を駆け下ったものです。が、昨秋は三峯神社の石段を、右手は手すり左手は孫の腕を掴んで下りました。認知機能については、奥の部屋に行つて「ハテ何しに来たんだっけ」と元の場所に戻り、「アッあの用事だ」と思い出しては家の中をウオーキングしています。コロナ禍に関係なく、視

力は年と共に衰えていきます。目はラインの衰えを探索するにルーペが必要ですが、耳は電話やテレビの言葉が聞き取れず、最近補聴器を使っています。自粛生活の楽しみは、テレビ、読書、スマホ、パソコンは同窓会役員になつてから、先輩や後輩に触発されて七十歳で始めました。独学は無理で教室に通いました。パソコンは他のクラブでも大いに役立つと思いました。今はユーチューブを楽しんでいます。スマホは後輩が何を調べるときもスマホを使うのが便利に見えて、八十五歳で思い切つてガラケーをスマホに替えました。後輩が手帳を持ち出すにスマホに文字を打ち込むので、「私も」とばかりに手帳を捨て、予定やメモはスマホに打ち込んでいます。スマホの中でも



「職業は？」と聞かれ、「主婦」と答える。悩まずとも良いところはありますが、ちよつと辞書で引いてみた。職業は「暮らして立てるために、日常従事する仕事。画家は絵を描くことを職業とする人。絵かき。主婦は主人の妻として、一家の生活を営みもっている婦人」とあった。たまたま職業の話になり、「絵を描いていいんだから『画家』でしょ」と言われた事が迷いの始まり。

## 絵を描くこと

高18回 堀内 洋子

「職業は？」と聞かれ、「主婦」と答える。悩まずとも良いところはありますが、ちよつと辞書で引いてみた。職業は「暮らして立てるために、日常従事する仕事。画家は絵を描くことを職業とする人。絵かき。主婦は主人の妻として、一家の生活を営みもっている婦人」とあった。たまたま職業の話になり、「絵を描いていいんだから『画家』でしょ」と言われた事が迷いの始まり。

り。暮らしを立てるために私は絵を描いているとは思っていないから。私が絵の道歩ききつかけとなつたのは、甲府二高との出会いにある。芸術教科の音楽、書道、美術の選択で、どれを取っても苦手。消去法で選ぶしかなかった。結果、美術となる。好んで選んだ教科ではないだけに指導を厳しく感じる事も多かった。しかし、先生の厳しさは、先生の自分自身へ



もりにしている。そして年老いた今は、土に塗れ、野菜作りを楽しむ。農業に従事する農婦である。どうあれ、夢中に従事出来るのはいい、主婦でも、画家でも、農婦でも、人生のほとんどを占めた私の絵描き人生、良き師に出会い、一生の友を得、まさに、甲府二高は私にとっては何よりの宝庫である。

私の生家では両親を始め家族はみな八十歳までに亡くなつていますが、虚弱児だった私は、驚くことに令和四年九十歳になりました。

親の生家では両親を始め家族はみな八十歳までに亡くなつていますが、虚弱児だった私は、驚くことに令和四年九十歳になりました。

力、聴力は年と共に衰えていきます。目はラインの衰えを探索するにルーペが必要ですが、耳は電話やテレビの言葉が聞き取れず、最近補聴器を使っています。自粛生活の楽しみは、テレビ、読書、スマホ、パソコンは同窓会役員になつてから、先輩や後輩に触発されて七十歳で始めました。独学は無理で教室に通いました。パソコンは他のクラブでも大いに役立つと思いました。今はユーチューブを楽しんでいます。スマホは後輩が何を調べるときもスマホを使うのが便利に見えて、八十五歳で思い切つてガラケーをスマホに替えました。後輩が手帳を持ち出すにスマホに文字を打ち込むので、「私も」とばかりに手帳を捨て、予定やメモはスマホに打ち込んでいます。スマホの中でも

「今どこに戻りたい？」と聞かれたら私は、「父と歩いた松林の道へ」と答えるでしょう。そして充実した学生生活を送りたいと答えるでしょう。

宿の予約も同じく簡単になつてしまつた。面倒だが色々考える事が旅の楽しみの一つだった。

の厳しさであった。画家としての生き方である。その生き方、姿勢に私は強く動かされ、「先生と同じ道を歩きたい」と思うようになっていた。背中を押すかのように「あなた、女子美術大学に行きなさい」私は迷わなかった。四年後、山梨の佐野先生の元に帰り、制作を続けた。私にくれた先生の最後の言葉は「描き続けなさい」であり、止める暇にはいらない、の強い気持で気が付けば六十年の今となる。暮らしを立てるためにもなく、描きながら生活を営む

の山には行つていないと思ふ。夕飯は根菜や缶詰など日持ちする食材で作り、ヘッドライトの明かりでみんな食べた。次の日が早いので、九時には寝袋に入るのだが、なかなか寝付けず、しばらくおしゃべりが続いた。懐かしく、楽しい思い出。新型コロナウイルスのため、会議や講習はウェブ開催が多くなったが、やはり対面の方が良い。今年は、旅行に行けることを願う。



昭和十二年四月、父と一緒に校庭の松並木の道を抜けて、入学式会場へと歩いた思い出は、生涯忘れぬこととあります。憧れの甲府高等女学校への入学の日です。あれから何年経つたことでしょうか。



私達の学生時代は、日支事変からはじまり太平洋戦争と激しい時代でした。その上、小学校時代とは違い、良妻賢母を育てる教育方針のために厳しく緊張の毎日でした。まずは月一回の服装検査からスカート丈は床上三十分センチ、上着の丈はウエストまでです。全員校庭集合。そのうちに先生方が長い竹の物差しを持って来られると、さあ大変！慌てて吊り上げていたスカートを引っ張り下ろしたり、糸で縫い上げていた上着をほどこいたり大忙しでした。礼儀作法も厳しかった。映画館へは父兄同伴。男女交際なんてとんでもないことでした。そのような中でも、放課後の部活動は楽しかった。庭球・籠球・排球を主に練習していましたが、私は排球部に所属して、体育の小池ミサ先生にご指導

いただき、県下でも強いチームでした。しばしば優勝し、写真時、写真が山日新聞に掲載されたことがありました。これを、中隊長としてシンガポールに出征の義兄に送つたところ、隊の中の山梨県出身の方々が故郷に思いを馳せ、大変喜んでくださったこともあり、二年生になると、「今年度から英語の授業はなくなりました」と伝えられました。英語は敵国語とされたため、この頃から、戦争も激しくなり、勝ち戦が

続き、昼は旗行列、夜は提灯行列と浮き立ってきまつた。私達は、授業にかわつて旗行列に参加しました。また、護国神社建立のために、毎日のように荒川から大きな石や砂利を運び続けたりしました。男子生徒の学徒動員の見送りもありました。ひたすらご無事を祈るのみでした。長い歴史の中には、こんなこともあったと思ひ起こし綴つておりましたが、百歳に近い人生を歩んできて、「今どこに戻りたい？」と聞かれたら私は、「父と歩いた松林の道へ」と答えるでしょう。そして充実した学生生活を送りたいと答えるでしょう。

旅に出たい  
高38回 山縣 正道

さて今回の旅行は何時のあずきに乗るか。会議、講習等だといので、先ずは交通手段を調べる。以前は、時刻表で時間を掛けて調べていたが、今はネットですぐに終わつてしまふ。山梨県は顧問の先生が決めるが、その山について調べ、行程表、コース図、高登山計画書を作成した。金曜日に食料品の買い出しに行き、土曜日の授業が終わると、先生の車で山へ連れて行つてもらった。午後出発し、暗くなる前にはテントを張らなければならぬので、あまり遅く

の山には行つていないと思ふ。夕飯は根菜や缶詰など日持ちする食材で作り、ヘッドライトの明かりでみんな食べた。次の日が早いので、九時には寝袋に入るのだが、なかなか寝付けず、しばらくおしゃべりが続いた。懐かしく、楽しい思い出。新型コロナウイルスのため、会議や講習はウェブ開催が多くなったが、やはり対面の方が良い。今年は、旅行に行けることを願う。



## 甲女四年間の思い出

本科第37回 佐野 茂

府高等女学校への入学の日です。あれから何年経つたことでしょうか。

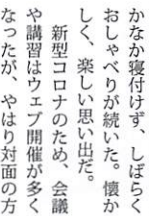
続き、昼は旗行列、夜は提灯行列と浮き立ってきまつた。私達は、授業にかわつて旗行列に参加しました。また、護国神社建立のために、毎日のように荒川から大きな石や砂利を運び続けたりしました。男子生徒の学徒動員の見送りもありました。ひたすらご無事を祈るのみでした。長い歴史の中には、こんなこともあったと思ひ起こし綴つておりましたが、百歳に近い人生を歩んできて、「今どこに戻りたい？」と聞かれたら私は、「父と歩いた松林の道へ」と答えるでしょう。そして充実した学生生活を送りたいと答えるでしょう。

旅に出たい  
高38回 山縣 正道

さて今回の旅行は何時のあずきに乗るか。会議、講習等だといので、先ずは交通手段を調べる。以前は、時刻表で時間を掛けて調べていたが、今はネットですぐに終わつてしまふ。山梨県は顧問の先生が決めるが、その山について調べ、行程表、コース図、高登山計画書を作成した。金曜日に食料品の買い出しに行き、土曜日の授業が終わると、先生の車で山へ連れて行つてもらった。午後出発し、暗くなる前にはテントを張らなければならぬので、あまり遅く

の山には行つていないと思ふ。夕飯は根菜や缶詰など日持ちする食材で作り、ヘッドライトの明かりでみんな食べた。次の日が早いので、九時には寝袋に入るのだが、なかなか寝付けず、しばらくおしゃべりが続いた。懐かしく、楽しい思い出。新型コロナウイルスのため、会議や講習はウェブ開催が多くなったが、やはり対面の方が良い。今年は、旅行に行けることを願う。

の山には行つていないと思ふ。夕飯は根菜や缶詰など日持ちする食材で作り、ヘッドライトの明かりでみんな食べた。次の日が早いので、九時には寝袋に入るのだが、なかなか寝付けず、しばらくおしゃべりが続いた。懐かしく、楽しい思い出。新型コロナウイルスのため、会議や講習はウェブ開催が多くなったが、やはり対面の方が良い。今年は、旅行に行けることを願う。





# 絵は加賀美の鏡

美術部 加賀美 葵



自分の気持ちや考えを  
意のままに相手へ伝える  
事は、私にとって最も難  
しい行為であると感じて  
います。日頃から、どう

したら上手く自分の思いを  
人に伝える事が出来るのか  
を模索する中、悩みに悩み  
抜いた末、それは絵で表現  
すればいいという考えに至  
りました。幼い

頃から描画が好  
きだったことを  
きっかけに、現  
在に至るまで創  
作活動を続けて  
います。  
高校入学後、  
最初に描いたの  
は「袖」という  
題の絵です。時

間の流れを水の流りに喩え、  
それを掬い上げるような手  
で画面を構成し、コロナ禍  
での高校生活で変容しなが  
らも袖がれてゆく学校の伝  
統や人の想いの力強さを絵  
に表しました。顧問の先  
生のご指導や手のモデルの友  
達の協力のお陰もあり、U  
TY教育美術展において、文  
部科学大臣賞を頂戴する事  
が出来ました。この時は名  
誉ある賞を頂けた嬉しさと、  
こんな自分でも認められ  
たという報われた気持ちでい  
っぱいでした。そして次の  
作品はこの気持ちに基に制  
作する事を思い立ちました。  
次作には、「名前と実質が  
伴っていない事」の意を有  
する「兎糞茶麦」という題  
をつけました。この言葉の

ように年齢に考え方や行  
動が伴っていない私への  
期待の気持ちと、エガギ  
ターをしながらはしゃぎ  
回ってしまっう程の喜びの  
気持ちと同居している事  
を絵に表しました。今年  
度の高校芸術文化祭に出  
品し、中学生の時から  
夢だった芸術文化祭賞を  
頂き、今年の夏に鹿児島  
県で開催される全国大会  
への出場が決定しました。  
私は以前よりも自分に自  
信が持てたような気がし  
ました。鹿児島大会へ参  
加する際には様々な作品  
とその地の豊かな自然や  
文化に触れ、さらなる高  
みに向けて精進して参り  
ます。

# 西高生 大空へ！

美術部  
ソフトテニス部

「準優勝、甲府西高  
校！令和四年のソフト  
テニス新人戦団体の結果  
だ。」

高校入学後、ソフトテ  
ニス部で真剣に頑張ろ  
うと集まった仲間。中学  
の部活動で初めてラケッ  
トを握った部員ばかりだ。  
それだけに準優勝は驚き  
もあったが、最高に嬉し  
い試合結果だ。

キャプテンとなった私  
は部内での話し合いを重  
ねた。常に明確な意識を  
持つようにし、効率のよ  
い練習を日々のごとし  
た。全員がモチベーション  
も更に上がり、結果に  
も繋がってきた。楽しく  
充実した部活動だ。  
新人戦の目標はベスト

4とした。強豪校との対戦  
が大きな壁だったが、皆の  
ムの意見は学び合うことが  
気迫に満ちたプレーはまた、  
多い。  
チーム全体を引き締めた。  
私の順番は、勝敗が決ま  
るプレッシャーに押し潰さ  
れそうになる3番手だった。  
先生。保護者の心強い応援

合いを次に繋げる。チー  
ムが、一進一退、もどか  
しい時も多々ある。  
しかし、「楽しく真剣  
に」をモットーに成長  
し続けた。部員同士で  
支え合っているからこそ  
このチームに貢献したい。  
そして最高の仲間たちと  
コートの中では全員で一  
本を、大きな一本は全員  
で勝ち取りたい。これか  
ら、甲府西高ソフトテ  
ニス部の応援をお願いします。

## 成長の途中

ソフトテニス部 頼川 太郎

一緒に頑張ってきた仲間  
と、信じ合っていた。思い  
切ったスマッシュが決まり  
ベスト4入り。その勢いの  
まま準優勝という快挙を成  
し遂げた。

試合後の反省は数多い。  
瞬時の状況判断、連携ミス、  
凡ミスなど多々だが、話し

ありがとうございます。そ  
して先輩、インターハイ予  
選まで戦った清々しい  
新人戦で誰よりも声を  
出してくれたこと。か  
つよかった。私の指

針になった。  
未だにソフトテニス

瞬間の状況判断、連携ミス、  
凡ミスなど多々だが、話し

針になった。  
未だにソフトテニス

針になった。  
未だにソフトテニス

針になった。  
未だにソフトテニス

針になった。  
未だにソフトテニス

針になった。  
未だにソフトテニス

針になった。  
未だにソフトテニス

針になった。  
未だにソフトテニス

針になった。  
未だにソフトテニス

## 西美会だより

高16回 青柳 晃子

令和五年の年が明けても  
なお猛威を振るう新型コロナ  
ウイルスに、早く終息し  
てほしいと願うばかりです。  
今年西美会展も六十回  
選層を迎えます。長く見  
てきた作品展を顧り見ると  
二高時代を懐かしく思い出  
します。美術部員として過  
ごしたあの頃、美術教師で  
部顧問でいらした佐野智子  
先生のご指導の下、部活動  
に励んでおりました。三年  
生の時、校名が二高でした  
ので二美展として、第一回  
が開催されました。

初めて経験する作品展に  
何とも言えないワクワク感  
と大先輩の方々と一緒に緊  
張した思いが蘇ります。  
卒業生と在校生が一緒に  
作品展は、当時は特異な作  
品展でした。私は卒業から  
現在まで、二美会、西美会  
に在籍しました。プランク  
もありましたが、先輩の皆  
様にお会いして、お話を伺  
った事が励みとなりました。  
作品展の会期中は、年齢  
差も関係なく親しくお話し  
しおおくの事を学ぶ場でも  
ありました。

西美会展は、美術部の西  
高生から九十歳代の同窓生  
迄幅広い層の作品が展示  
されています。一人一人が  
努力して美術に対する感性  
を磨き続け、創造し作品を  
発表する場となってきました。  
西美会が六十回と回を  
重ね、その過程を思い起こ  
す時これ迄御尽力下さった

先輩の方々への感謝の思い  
を強く致します。  
会員個々の努力はもちろ  
んですが、同窓会の方々の  
支え、学校のご理解とご協  
力があり現在に続いている  
事に深く感謝しております。  
これからも美しい物に触  
れ、感動する心を作品に表  
現できたらと思います。

## 短歌を作る楽しさ

高16回 村田三枝子

寺庭に繁る菩提樹杖先  
に香り揺らして黄の小  
花咲く

以前の作歌した歌を読み  
返すと、そのときの情景が  
鮮やかに目に浮かび香りま  
で漂ってくる様な気がしま  
す。短歌の持つ不思議な力  
です。

私と短歌との出会いは、  
成人祝いに父が私に向けて  
短歌を詠んでくれたことで  
した。その歌は、成長した  
娘をよるごぶ内容でしたが、  
日頃は寡黙な父でしたが、  
その思いが伝わって、胸が熱  
くなったことを覚えていま  
す。短い言葉に心の内を表  
現出来ることに魅力を感じ  
ました。

それから時を経て、自分  
の時間が持てるようになって  
た頃から、日々の暮らしの

中の小さな感動や、季節の  
移ろい、身のまわりの人達  
との関わりなどを詠むよう  
になりました。

短歌の師からは「自分の  
感情を動かしたものを大切  
に書き、膨らませ、かたち  
にすること、佳い歌を  
作るというよりも、偽りの  
ない誠実さを歌にすることに  
である」と教えられていま  
す。

七律を夜すがら守る親  
族らて本堂の窓あか  
き灯る  
取れ居るのトマトのや  
うな口唇に孫の舌の葉  
日毎に増しぬ  
俯きていつもひびとりに  
帰る児が草取る我にさ  
よなををよよ

寺に嫁ぎ五十年余、檀家  
様を通して人生の無常の場

面に接する機会も多く、そ  
の中から学ぶことが沢山  
あり歌にしてみました。  
また家内のことに於ては  
わが子の子育ては無我夢中  
で過ごした記憶があります  
せんが、孫となると余裕の  
気持ちで接することが出来、  
孫の成長を見守るのは至福  
の時でもあります。自ずと歌が  
生まれます。高校生になっ  
た孫からは、幼い頃の自分  
の歌を見て「この歌は僕の  
こと？」と嬉しそうに言う  
時の顔を見るのが私にとっ  
て尤も嬉しいひとときです。  
これからも支えてくださ  
るまわりの人々に感謝しな  
がら一日一日を大切に過し  
てゆきたいと思っております。



菩提樹の花



西美会展の会期中は、年齢差も関係なく親しくお話ししおおくの事を学ぶ場でもありました。

## ～創立120周年記念式典～

令和5年10月5日(木) YCC県民文化ホールにて  
挙行されます。池上彰氏の記念講演もあります。

ようこそ 甲府西高同窓会ホームページへ

<https://www.kofunishikou.com/>

同窓会のことならなんでもわかります。アクセスして下さい。



## 編集後記

一年作業を中止し、二年  
ぶりの発行となった会報  
二十四号、庶務部六人の思  
いが詰まっています。  
寄稿して下さいました原稿を  
読ませていただき、と、様々  
な場所所へ同窓生がいる。  
在校生の原稿は躍動感満載  
で若いパワーを頼もしく思  
う。  
コロナ禍、同窓会総会は  
形を変え行われた。そこに  
傘寿の方達の姿はなくお祝  
いの品は配達された。そのこ  
ろ、後日、別の会で傘  
寿の方とお会いした時、と  
ても嬉しく感謝の気持ちを伝  
えてほしいと言われた。お  
祝の品と一緒に実行委員の  
真心も届いたのだと思っ  
た。様々な人との出会いは人  
生を豊かにする。この会報  
が多くのの方の目にとまり、  
同窓生の交流の一助となれ  
ば幸いです。